

COSMETIC HAVING BEAUTIFULLY WHITENING EFFECT

Patent number: JP2000169339
Publication date: 2000-06-20
Inventor: MORI KUNIHIKO; NAKAMURA TADAO
Applicant: POLA CHEM IND INC
Classification:
- **international:** (IPC1-7): A61K7/00
- **european:**
Application number: JP19980361858 19981204
Priority number(s): JP19980361858 19981204

Report a data error here

Abstract of JP2000169339

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic having more improved beautifully whitening effect even though using a conventional beautifully whitening agent by including a shielding powder and a beautifully whitening agent. **SOLUTION:** This cosmetic contains (A) a shielding powder, e.g. a powder containing ≥ 50 wt.% of a doping type titanium dioxide or zinc oxide and (B) a beautifully whitening agent, e.g. ascorbic acid, a glycoside of hydroquinone, a 6-12C aromatic compound having a phenolic hydroxyl group, (e.g. caffeic acid or syringic acid), tranexamic acid. In the cosmetic, the component A is preferably contained in a content of 1-20 wt.% when it is a fundamental cosmetic, 1-20 wt.% when a make up cosmetic of an emulsifier type and 1-50 wt.% when a non-emulsifier type make up cosmetic and the component B is preferably contained in a content of 0.01-10 pts.wt.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-169339

(P2000-169339A)

(43)公開日 平成12年6月20日 (2000.6.20)

(51)Int.Cl.

A 61 K 7/00

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 61 K 7/00

X 4 C 0 8 3

B

審査請求 未請求 請求項の数8 FD (全9頁)

(21)出願番号

特願平10-361858

(71)出願人 000113470

ポーラ化成工業株式会社

静岡県静岡市弥生町6番48号

(72)発明者 毛利 邦彦

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内

(72)発明者 中村 直生

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 美白効果を有する化粧料

(57)【要約】

【課題】 本発明は、従来の美白剤を使用しつつも、その効果を更に改善した化粧料を提供することを課題とする。

【解決手段】 隠蔽性粉体から選ばれる1種乃至は2種以上と美白剤とを化粧料に含有させる。本発明によれば、従来の美白剤を使用しつつも、その効果を更に改善した化粧料を提供することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 隠蔽性粉体から選ばれる1種乃至は2種以上と美白剤とを含有する化粧料。

【請求項2】 隠蔽性粉体の少なくとも1種が、二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体であることを特徴とする、請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】 美白剤が、アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノンの配糖体及びその誘導体、フェノール性水酸基を有する炭素数6～12の芳香族化合物、トラネキサム酸及びその誘導体から選ばれる1種乃至は2種以上であることを特徴とする、請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】 二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体が、ドープ型粉体であることを特徴とする、請求項1～3の何れか一項に記載の化粧料。

【請求項5】 美白用のマークアップ化粧料であることを特徴とする、請求項1～4の何れか一項に記載の化粧料。

【請求項6】 二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体とアスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノンの配糖体及びその誘導体、フェノール性水酸基を有する炭素数6～12の芳香族化合物、トラネキサム酸及びその誘導体から選ばれる1種乃至は2種以上とを含有することを特徴とする、化粧料。

【請求項7】 二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体が、ドープ型粉体であることを特徴とする、請求項6に記載の化粧料。

【請求項8】 美白用のマークアップ化粧料であることを特徴とする、請求項6又は7に記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はマークアップ化粧料に好適な化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 色白の美しい肌は、古来より全人が希望してきたことであり、この様な肌を得るために数々の努力が為されてきた。この中で、色の白さ、言い換えれば色の黒さの原因が、メラノサイトで生成されるメラニンであることが明らかにされた。このメラニンの量の多少により、肌の色が黒くなったり白くなったりすることも解明された。このメラニンの生合成には、チロシナーゼやチロシナーゼ関連蛋白質群と呼ばれる蛋白或いはピンクアイダイリュート遺伝子等が関与していることも既に知られていることである。又、この様な酵素、蛋白、遺伝子等の働きを阻害し色白を具現化するための、いわゆる美白剤と呼ばれる、アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノンの配糖体及びその誘導体、フェノール性水酸基を有する炭素数6～12の芳香族化合物、トラネキサム酸及びその誘導体等の素材やそれらを含有する化粧料が開発され、かなりの程度は色を白くすることが可

能になってきた。しかしながら、その美白の程度については充分に満足の行くものとは言い難かった。この為、更なる美白作用を具現する手段が望まれていた。

【0003】 一方、二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体は、例えば、鉄ドープ二酸化チタン、ジルコニウムドープ二酸化チタン、鉄ドープ酸化亜鉛、ジルコニウムドープ酸化亜鉛等の様に、通常マークアップ化粧料に於いて、隠蔽粉体として使用されているが、化粧料に於いて、上記美白剤とともに使用することも、この様な組合せに於いて、美白剤の美白作用が優れて發揮されることも全く知られていなかった。又、マークアップ化粧料に於いて、美白剤をマークアップ化粧料に含有させることも、美白効果を有するマークアップ化粧料も全く知られていなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、この様な状況下為されたものであり、従来の美白剤を使用しつつも、その効果を更に改善した化粧料を提供することを課題とする。

【0005】

【課題の解決手段】 この様な状況に鑑みて、本発明者は銳意研究努力を重ねた結果、二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体等の隠蔽性粉体から選ばれる1種乃至は2種以上とアスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノンの配糖体及びその誘導体、フェノール性水酸基を有する炭素数6～12の芳香族化合物、トラネキサム酸及びその誘導体等の美白剤とを組み合わせて化粧料に含有させることにより、美白剤の作用を著しく向上させることが可能であることを見出し、発明を完成させるに至った。更には、マークアップ化粧料へとの技術を応用することにより、マークアップ機能を有しながら、優れた美白作用を有する多機能化粧料を提供することも可能であることを見出し、発明を発展させた。以下、本発明についてその実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【0006】

【発明の実施の形態】 (1) 本発明の化粧料の必須成分である隠蔽性粉体

本発明の化粧料は、隠蔽性粉体から選ばれる1種乃至は2種以上を必須成分として含有することを特徴とする。ここで、本発明で言う隠蔽性粉体とは、少なくとも30%以上吸収する粉体であって、例えば、二酸化チタン、酸化亜鉛、酸化鉄、酸化ジルコニウム、酸化クロム、水酸化クロムチタン酸コバルト及びこれらと無水珪酸やアルミニナ等の任意成分との複合酸化物等が具体的に例示できる。これらの中で特に好ましいのは、二酸化チタン又は酸化亜鉛を50%以上含有する粉体、即ち、二酸化チタン、酸化亜鉛或いは鉄ドープ二酸化チタン、ジルコニウムドープ二酸化チタン、鉄ドープ酸化亜鉛、ジルコニウムドープ酸化亜鉛等の二酸化チタンや酸化亜鉛のド

ープ体である。この様な粉体を少なくとも1種隠蔽粉体として含有するのが好ましい形態である。本発明の化粧料に於いては、隠蔽性粉体としてこの様な二酸化チタンや酸化亜鉛のドープ型の粉体を用いることが特に好ましい。この様なドープ型粉体は、二酸化チタンや酸化亜鉛を任意成分の酸化物とともに1000°C程度で焼結することによって得ることが出来るが、この様な粉体には多くの市販品があり、この様な市販品を利用する事も可能である。この様な市販品としては、例えば、石原産業株式会社製のタイペークTT0-F-1、TT0-F-2、TT0-F-6等が好ましく例示できる。これらの隠蔽性粉体は、そのまま使用することもできるし、シリコーン処理、パーフルオロアルキル処理、金属石鹼処理、アミノ酸塩処理、シリル化処理、燐酸塩処理、シリカゲルやアルミナによるコーティング処理等の処理を行って使用することも可能であり、この様な場合も、本発明の技術的範囲に属する。本発明の化粧料に於ける、これら隠蔽性粉体の好ましい含有量は、化粧料の剤形によって異なるが、基礎化粧料であれば1~20重量%であり、更に好ましくは2~5重量%である。乳化剤形のマークアップ化粧料であれば、1~20重量%であり、更に好ましくは2~10重量%である。又、非乳化型のマークアップ化粧料であれば、1~50重量%であり、更に好ましくは3~30重量%である。これは少なすぎると、隠蔽粉体の効果を発揮できない場合があり、多すぎると、効果が頭打ちになるばかりでなく、系の安定性を損なう場合や色彩などの品質に欠陥を生じたりする場合があるからである。

【0007】(2) 本発明の化粧料の必須成分である美白剤

本発明の化粧料では、美白剤から選ばれる1種乃至は2種以上を必須成分として含有する。ここで言う美白剤とは、メラノサイトによって産生されるメラニンの産生量を抑制するものを意味し、その産生抑制のメカニズムとしては、例えば、チロシナーゼ阻害作用、メラノサイト刺激ホルモン阻害作用、チロシナーゼ類似蛋白(TRP)阻害作用、ピンクアイダイリュート遺伝子の発現阻害作用等の種々のメカニズムが存在するが、そのメカニズムについては特に限定されない。この様な誘導体としては、例えば、アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノンの配糖体及びその誘導体、フェノール性水酸基を有する炭素数6~12の芳香族化合物、トラネキサム酸及びその誘導体等が好ましく例示できる。ここで、アスコルビン酸の誘導体としては、例えば、水酸基をアシル基で修飾したアシル化体、グルコースやマルトース等で配糖体化した配糖体、ベンジル基等の炭化水素基とのエーテル体、燐酸や硫酸などとのエステル体及び生理的に許容されるこれらの塩等が好ましく例示できる。生理的に許容できる塩としては、ナトリウムやカリウムなどのアルカリ金属塩、カルシウムやマグネシウム等のアル

カリ金属塩、アンモニウム塩、トリエチルアミンやトリエタノールアミン等の有機アミン塩、アルギニンやリジン等の塩基性アミノ酸塩等が好ましく例示できる。以後、生理的に許容される塩とはこの様なものを意味する。ハイドロキノンの配糖体としてもアスコルビン酸の配糖体同様にグルコシドやマルトシドが例示でき、この誘導体としてはアシル化体、アルキルエーテル、燐酸エステルや硫酸エステル及びこれらの生理的に許容される塩が例示できる。フェノール性水酸基を有する炭素数6~12の芳香族としては、カフェ酸、シリング酸、コウジ酸、フェルラ酸、イソフェルラ酸、レゾルシノールこれらのアルデヒド体、アルキル化物、生理的に許容される塩等が例示できる。トラネキサム酸の誘導体としては、アルキルエステル、アルキルアミドこれらの生理的に許容できる塩等が例示できる。これら上記に於けるアルキル基とは、炭素数1~4の直鎖乃至は分岐のものを意味する。アシル基としては、アルキルカルボニル基のみならず、水酸基、アセトキシ基、アルコキシ基、ハロゲン原子等の置換基を有していても良いベンソイル基等の芳香族アシル基も含む。これら美白剤の好ましい含有量は、総量で0.01~10重量部であり、更に好ましくは、0.05~5重量%である。

【0008】(3) 本発明の化粧料

本発明の化粧料は上記必須成分を含有することを特徴とする。この様な形態をとることにより、上記成分必須成分の内、美白剤の美白効果を最大限引き出すことが出来る。本発明で言う化粧料とは、化粧料全般を意味し、例えば、クリーム、化粧水、乳液などの基礎化粧料、アンダーマークアップ、ファンデーション、アイカラー、リップカラー、チークカラー等のマークアップ化粧料、シャンプー、リンス、コンディショナー、洗顔料、石鹼等の洗浄料、ヘアオイル、ヘアリキッド、ヘアクリーム等の頭髪用化粧料などが好ましく例示できる。これらの内、特に好ましい化粧料はマークアップ化粧料である。これは、隠蔽性粉体の有している色を、この様な化粧料では他の色材を併用することにより目立たなくすることが出来るからである。この様なマークアップ化粧料の中でも、シミなどの部分的に色の濃い部分に適用し、この色を目立たなくさせるスポットカバー等の化粧料に用いるのが最も好ましい。これは、シミを隠しながら薄くすることが出来るからである。

【0009】本発明の化粧料に於いては、上記必須成分以外に、化粧料で通常使用される任意成分を含有することが出来る。この様な任意成分としては、例えば、ワセリンやマイクロクリスタリンワックス等のような炭化水素類、ホホバ油やゲイロウ等のエステル類、牛脂、オリーブ油等のトリグリセライド類、セタノール、オレインアルコール等の高級アルコール類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸、グリセリンや1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、非イオン界面活性剤、アニオ

ン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、エタノール、カーボホール等の増粘剤、防腐剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、色素、粉体類等が好ましく例示できる。これら任意成分と必須成分とを常法に従って処理することにより、本発明の化粧料を製造することが出来る。

【0010】

【実施例】以下に、実施例を挙げて、本発明について更に詳細に説明を加えるが、本発明がこれら実施例にのみ限定されることは言うまでもない。

【0011】<実施例1～4>以下に示す処方に従って、本発明の化粧料であるパック料を作成した。即ち、処方成分を良く混合攪拌し、パック料を得た。又、これらの化粧料を用いて、人上腕部に作成した色素沈着モデルで、色素沈着の改善試験を行った。色素沈着は予め測定したMEDの0.8倍の紫外線（光源SEランプ）を

酢酸ビニルポリマーエマルジョン
クロロヘキシジングルコネート
アスコルビン酸磷酸マグネシウム
粉体*
ポリオキシエチレン(20)ステアリルエーテル
スクワラン
水

*詳細は表1

【0012】

【表1】

サンプル	粉体	評価
実施例1	二酸化チタン	+
実施例2	タイマークTT0-F-1	++
実施例3	タイマークTT0-F-6	++
実施例4	酸化亜鉛	++
比較例1	タルク	-

酢酸ビニルポリマーエマルジョン
クロロヘキシジングルコネート
アルブチン
タイマークTT0-F-1
ポリオキシエチレン(20)ステアリルエーテル
スクワラン
水

【0014】<実施例6>以下に示す処方に従って、本発明の化粧料であるパック料を作成した。即ち、処方成分を良く混合攪拌し、パック料を得た。又、これらの化粧料を用いて、人上腕部に作成した色素沈着モデルで、実施例1～4と同様に色素沈着の改善試験を行った。比

酢酸ビニルポリマーエマルジョン
クロロヘキシジングルコネート

連日4日照射し作成した。これを2cm×2cmの部位6つに分割し、実施例1～4、比較例1として実施例1の二酸化チタンをタルクに置換したもの、対照例1として実施例1の二酸化チタンを水に置換したものをそれぞれの部位に、1日1回連日7日投与して15分間処理してもらった。最後の投与の24時間後に色素沈着を、対照例1に比較して、++：著しく優れて改善している、+：明らかに優れて改善している、±：やや優れて改善している、-：差は認められない乃至は対照例1より劣るの基準で判定した。結果を表1に示す。これより、本発明の化粧料は美白効果に優ることが明らかである。尚、タイマークTT0-F-1の二酸化チタンの含有量は7.6重量%であり、タイマークTT0-F-6のそれは8.8重量%である。この結果より、ドープタイプの隠蔽性粉体を用いることが、本発明では好ましいこともわかる。

5.0	重量部
0.05	重量部
1	重量部
5	重量部
1	重量部
5	重量部
37.5	重量部

【0013】<実施例5>以下に示す処方に従って、本発明の化粧料であるパック料を作成した。即ち、処方成分を良く混合攪拌し、パック料を得た。又、これらの化粧料を用いて、人上腕部に作成した色素沈着モデルで、実施例1～4と同様に色素沈着の改善試験を行った。比較例2として、このもののタイマークTT0-F-1をタルクに置換したもの、対照例2として、水に置換したもの用いた。結果は本発明のパック料が++～++であり、比較例は-～±であった。これより、実施例1～4同様のことがアルブチンに於いても認められた。

5.0	重量部
0.05	重量部
1	重量部
5	重量部
1	重量部
5	重量部
37.5	重量部

較例3として、このもののタイマークTT0-F-1をタルクに置換したもの、対照例3として、水に置換したもの用いた。結果は本発明のパック料が++～++であり、比較例は-であった。これより、実施例1～4同様のことがコウシ酸ナトリウムに於いても認められた。

5.0	重量部
0.05	重量部

コウジ酸ナトリウム	1	重量部
タイペークTT0-F-1	5	重量部
ポリオキシエチレン(20)ステアリルエーテル	1	重量部
スクワラン	5	重量部
水	37.5	重量部

【0015】<実施例7>下記に示す处方に従って、本発明の化粧料である、ファンデーションを作成した。ファンデーションは、イ、ロ、ハ、ニをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを良く混練りし、ハを加えて希釈し、これにホを分散させた後、ニを徐々に加えて乳化し、攪拌冷却して作成した。このものの粉体を全てタルクに替えた比較例4、水に替えた対照例4も作成し、実施例1～4と同様に美白作用を比較した。結果は本発明の化粧料が++であるのに対し、比較例はーであった。これよ

イ		
70%マルチトール水溶液	5	重量部
1,3-ブタンジオール	5	重量部
グリセリン	3	重量部
メチルパラベン	0.3	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部
アスコルビン酸磷酸マグネシウム	0.5	重量部
ロ		
トリグリセリンジイソステアレート	5	重量部
ハ		
軽質イソパラフィン	1.5	重量部
流動パラフィン	5	重量部
カルナウバワックス	3	重量部
ニ		
水	43.1	重量部
ホ		
粉体(二酸化チタン、酸化鉄、タルク)	1.5	重量部
〔内訳〕		
二酸化チタン	5	重量部
タイペークTT0-F-6	5	重量部
酸化亜鉛	2	重量部
ベンガラ	0.1	重量部
黄色酸化鉄	0.4	重量部

【0016】<実施例8>下記に示す处方に従って、本発明の化粧料である、ファンデーションを作成した。ファンデーションは、イ、ロ、ハ、ニをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを良く混練りし、ハを加えて希釈し、これにホを分散させた後、ニを徐々に加えて乳化し、攪拌冷却して作成した。このものの粉体を全てタルクに替えた比較例5、水に替えた対照例5も作成し、実施例1～4と同様に美白作用を比較した。結果は本発明の化粧料が++であるのに対し、比較例はーであった。これよ

イ		
70%マルチトール水溶液	5	重量部
1,3-ブタンジオール	5	重量部
グリセリン	3	重量部

り、本発明の化粧料が美白作用を効果的に発揮していることがわかる。又、このことより、本発明のメークアップ化粧料を使用すると、シミなどの色素異常をカバーしながら改善しうると言う、著しく優れた作用があることもわかる。更に、メークアップ化粧料に於いては、美白作用を高める作用がことのほかに優れているので、本発明の化粧料はメークアップ化粧料に適用するのが好適であることがわかる。

り、本発明の化粧料が美白作用を効果的に発揮していることがわかる。又、このことより、本発明のメークアップ化粧料を使用すると、シミなどの色素異常をカバーしながら改善しうると言う、著しく優れた作用があることもわかる。更に、メークアップ化粧料に於いては、美白作用を高める作用がことのほかに優れているので、本発明の化粧料はメークアップ化粧料に適用するのが好適であることがわかる。

メチルパラベン	0.3	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部
アルブチン	0.5	重量部
ロ		
トリグリセリンジイソステアレート	5	重量部
ハ		
軽質イソパラフィン	1.5	重量部
流動パラフィン	5	重量部
カルナウバワックス	3	重量部
ニ		
水	4.3	1重量部
ホ		
粉体（二酸化チタン、酸化鉄、タルク）	1.5	重量部
〔内訳〕		
二酸化チタン	5	重量部
タイペークTTO-F-6	5	重量部
酸化亜鉛	2	重量部
ベンガラ	0.1	重量部
黄色酸化鉄	0.4	重量部

【0017】<実施例9>下記に示す処方に従って、本発明の化粧料である、ファンデーションを作成した。ファンデーションは、イ、ロ、ハ、ニをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを良く混練りし、ハを加えて希釈し、これにホを分散させた後、ニを徐々に加えて乳化し、攪拌冷却して作成した。このものの粉体を全てタルクに替えた比較例6、水に替えた対照例6も作成し、実施例1～4と同様に美白作用を比較した。結果は本発明の化粧料が++であるのに対し、比較例は-であった。これよ

イ		
70%マルチトール水溶液	5	重量部
1,3-ブタンジオール	5	重量部
グリセリン	3	重量部
メチルパラベン	0.3	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部
コウジ酸ナトリウム	0.5	重量部
ロ		
トリグリセリンジイソステアレート	5	重量部
ハ		
軽質イソパラフィン	1.5	重量部
流動パラフィン	5	重量部
カルナウバワックス	3	重量部
ニ		
水	4.3	1重量部
ホ		
粉体（二酸化チタン、酸化鉄、タルク）	1.5	重量部
〔内訳〕		
二酸化チタン	5	重量部
タイペークTTO-F-6	5	重量部
酸化亜鉛	2	重量部
ベンガラ	0.1	重量部

り、本発明の化粧料が美白作用を効果的に発揮していることがわかる。又、このことより、本発明のマークアップ化粧料を使用すると、シミなどの色素異常をカバーしながら改善しうると言う、著しく優れた作用があることもわかる。更に、マークアップ化粧料に於いては、美白作用を高める作用がことのほかに優れているので、本発明の化粧料はマークアップ化粧料に適用するのが好適であることがわかる。

黄色酸化鉄

【0018】<実施例10>下記に示す処方に従って、本発明の化粧料である、ファンデーションを作成した。ファンデーションは、イ、ロ、ハ、ニをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを良く混練りし、ハを加えて希釈し、これにホを分散させた後、ニを徐々に加えて乳化し、攪拌冷却して作成した。このものの粉体を全てタルクに替えた比較例7、水に替えた対照例7も作成し、実施例1～4と同様に美白作用を比較した。結果は本発明の化粧料が++であるのに対し、比較例は-であった。これよ

イ

70%マルチトール水溶液	5	重量部
1, 3-ブantanジオール	5	重量部
グリセリン	3	重量部
メチルパラベン	0.3	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部
イソフェルラ酸ナトリウム	0.5	重量部
ロ		
トリグリセリンジイソステアレート	5	重量部
ハ		
軽質イソパラフィン	1.5	重量部
流動パラフィン	5	重量部
カルナウバワックス	3	重量部
ニ		
水	43.1	重量部
ホ		
粉体（二酸化チタン、酸化鉄、タルク）	1.5	重量部
〔内訳〕		
二酸化チタン	5	重量部
タイペークTTO-F-1	5	重量部
酸化亜鉛	2	重量部
ベンガラ	0.1	重量部
黄色酸化鉄	0.4	重量部

【0019】<実施例11>以下に示す処方に従って、本発明の化粧料である、パウダーファンデーションを作成した。即ち、処方成分イをヘンシェルミサーで混合し、0.9mm丸穴スクリーンを装着したパルベライザーで粉碎し、ヘンシェルミキサーで混合しながら処方成分ロを滴下コーティングし、1mmヘリングボーンスクリーンを装着したパルベライザーで仕上げ粉碎し、金皿

イ

シリコーン処理微粒子二酸化チタン	1.0	重量部
ステアリン酸亜鉛処理微粒子二酸化チタン	5	重量部
パーフルオロ処理タイペークTTO-F-1	1.0	重量部
シリコーン処理10%酸化鉄焼き付け酸化亜鉛	1.0	重量部
シリコーン処理黄色酸化鉄	5	重量部
シリコーン処理ベンガラ	1	重量部
シリコーン処理虹彩箔	3	重量部
シリコーン処理チタンマイカ	1	重量部
シリコーン処理セリサイト	2.0	重量部

0.4重量部

り、本発明の化粧料が美白作用を効果的に発揮していることがわかる。又、このことより、本発明のマークアップ化粧料を使用すると、シミなどの色素異常をカバーしながら改善しうると言う、著しく優れた作用があることもわかる。更に、マークアップ化粧料に於いては、美白作用を高める作用がことのほかに優れているので、本発明の化粧料はマークアップ化粧料に適用するのが好適であることがわかる。

に充填し加圧成形してパウダーファンデーションを得た。このものの粉体を全てシリコーン処理タルクに置換した対照例8を作成し、実施例1～4と同様に美白効果を比較したところ、++の評価であった。隠蔽性粉体の表面を処理しても本発明の効果に差し障りのないことが明らかである。

シリコーン処理マイカ	1 4	重量部
アルブチン	1	重量部
ロ		
オレイン酸オクチルドデシル	1 0	重量部
ジメチコン	5	重量部
環状シリコーン	4	重量部
シリコーンエラストマー	1	重量部
【0020】<実施例12>下記に示す処方に従って、 スポットカバーを作成した。即ち、処方成分イを良く混 合し、予め90°Cで加熱溶解させておいた処方成分ロに 加え、良く混合した後、ホットロールにかけ、加熱再溶 解させて、金型に流し込み冷却させて取り出し、スポット カバーを得た。このものを大きなシミのある人に2カ イ		月間使用してもらったところ、シミは殆ど消失している にもかかわらず、この様なシミを改善する際に時折見ら れる、白斑は全く認められなかった。これより、本発明 の化粧料はスポットカバーに大変好適であることがわか る。
二酸化チタン	2 5	重量部
ベンガラ	2	重量部
黄色酸化鉄	5	重量部
紺青	1	重量部
酸化鉄焼き付け二酸化チタン	6	重量部
アスコルビン酸グルコシド	1	重量部
ロ		
モクロウ	1 0	重量部
マイクロクリスタリンワックス	3	重量部
カルナウバワックス	7	重量部
キャンデリラワックス	5	重量部
ポリエチレン	2	重量部
ミツロウ	3	重量部
ヒマシ油	1 0	重量部
スクワラン	1 9	重量部
ソルビタンモノオレート	1	重量部

【0021】<実施例13>下記に示す処方に従って、
スポットカバーを作成した。即ち、処方成分イを良く混
合し、予め90°Cで加熱溶解させておいた処方成分ロに
加え、良く混合した後、ホットロールにかけ、加熱再溶
解させて、金型に流し込み冷却させて取り出し、スポット
カバーを得た。このものを大きなシミのある人に2カ

イ	2 5	重量部
二酸化チタン	2	重量部
ベンガラ	5	重量部
黄色酸化鉄	1	重量部
紺青	6	重量部
酸化鉄焼き付け二酸化チタン	1	重量部
フェルラ酸		
ロ		
モクロウ	1 0	重量部
マイクロクリスタリンワックス	3	重量部
カルナウバワックス	7	重量部
キャンデリラワックス	5	重量部
ポリエチレン	2	重量部
ミツロウ	3	重量部

月間使用してもらったところ、シミは殆ど消失している
にもかかわらず、この様なシミを改善する際に時折見ら
れる、白斑は全く認められなかった。これより、本発明
の化粧料はスポットカバーに大変好適であることがわか
る。

ヒマシ油	10	重量部
スクワラン	19	重量部
ソルビタンモノオレート	1	重量部

【0022】<実施例14>下記に示す処方に従って、
スポットカバーを作成した。即ち、処方成分イを良く混
合し、予め90°Cで加熱溶解させておいた処方成分ロに
加え、良く混合した後、ホットロールにかけ、加熱再溶
解させて、金型に流し込み冷却させて取り出し、スポット
カバーを得た。このものを大きなシミのある人に2カ

イ		
二酸化チタン	25	重量部
ベンガラ	2	重量部
黄色酸化鉄	5	重量部
紺青	1	重量部
酸化鉄焼き付け二酸化チタン	6	重量部
ハイドロキノンマルトシド	1	重量部

ロ		
モクロウ	10	重量部
マイクロクリスタリンワックス	3	重量部
カルナウバワックス	7	重量部
キャンデリラワックス	5	重量部
ポリエチレン	2	重量部
ミツロウ	3	重量部
ヒマシ油	10	重量部
スクワラン	19	重量部
ソルビタンモノオレート	1	重量部

【0023】

【発明の効果】本発明によれば、従来の美白剤を使用し

月間使用してもらったところ、シミは殆ど消失している
にもかかわらず、この様なシミを改善する際に時折見ら
れる、白斑は全く認められなかった。これより、本発明
の化粧料はスポットカバーに大変好適であることがわか
る。

つとも、その効果を更に改善した化粧料を提供すること
ができる。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA122 AB211 AB212
AB232 AB241 AB242 AB432
AB442 AC022 AC122 AC132
AC182 AC352 AC422 AC442
AC471 AC472 AC621 AC812
AC842 AD022 AD092 AD152
AD162 AD172 AD391 AD392
AD641 AD642 BB21 CC07
CC11 CC12 CC19 DD17 DD21
DD23 EE16 FF05 FF06